

人文學報

CXXII

京都大學
人文科學研究所

2024

人文学報

122

京都大学人文科学研究所

2024年6月

目 次

〈小特集〉 可能性の空間の地図制作 ^{カルトグラフィ} —— 概念の歴史学と実践の社会学の対話 ——	
可能性の空間の地図制作 ^{カルトグラフィ}	岡 澤 康 浩 1
—— 概念の歴史学と実践の社会学の対話 ——	
実践における概念を研究するとはどのようなことか?	前 田 泰 樹 7
—— エスノメソドロジーから見た『客観性』と『ラボラトリー・ライフ』——	
普段着姿の認識論と存在論に立ち戻る	河 村 賢 25
〈小特集〉 戦後京都と教育・文化運動 —— 京都人文学園を中心に ——	
はじめに	福 家 崇 洋 45
○論文篇	
京都人文学園の形成と変容	奥 村 旅 人 49
—— 知識人・労働者による教育空間と社会運動の関係史 ——	
私立各種学校・京都人文学園の歴史	須 永 哲 思 77
—— 「人文主義の精神に依る教育」のゆくえ ——	
新村猛と『世界文化』	藤 野 志 織 115
—— 1930年代京都のフランス的文脈を踏まえて ——	
戦後歴史学の明暗	福 家 崇 洋 143
—— 渡部徹と社会・労働運動史研究 ——	
○資料篇	
資料目録	
I 京都勤労者学園所蔵京都人文学園関係資料目録	
.....	奥 村 旅 人・須 永 哲 思 173
	福 家 崇 洋

II	吉田九洲穂旧蔵京都人文学園関係資料目録	須永哲思	233
III	新村猛関係資料目録	奥村旅人・須永哲思 福家崇洋・藤野志織	237
IV	京都地方労働組合総評議会（京都総評）関係資料目録	福家崇洋	261

翻刻資料

I	新村猛「民主戦線の諸問題」	藤野志織	279
II	講義ノート「一般教養(新村猛先生) (6.10ノ趣意書ニ依ル)」	須永哲思	319
III	簿冊「昭和二十一年度 審査合格者作文 京都人文学園」	須永哲思	331
IV	「12月1日 講師会議記録」(簿冊「京都勤労者学園の創立 人文学園, 勤労協資料(渡部徹氏保存分)」内)	奥村旅人	337
V	新村猛「佐々木時雄弔辞」	福家崇洋	345
VI	「人文学園創立30周年の集い」	奥村旅人	349

〈論文〉

	新聞連載小説として読み直すアルフレッド・ジャリの『訪問する愛』	合田陽祐	383
	青空がほしい再訪	小堀聡	403
	—— 高度成長期戸畑の婦人会による反公害運動の道のり ——		
	杉孫七郎と泉涌寺	齊藤紅葉	453
	—— 宮中との関りを通して ——		
	山内得立の哲学	ロマリク・ジャネル	475
	—— 東西思想の包括的乗り越えの試み ——		
	ルールに身体を横たえて	瀬戸口明久	495
	—— 鉄道自殺の技術論 ——		

天明期の凶作と砺波平野 …………… 武井 弘一 513

九鬼周造の押韻論におけるポール・ヴァレリーと歌論 …………… 藤貫 裕 535

——「純粹詩」を手掛かりに——

〈成果報告〉

ルネ・ギル『最良の生成』(René Ghil, *Le Meilleur devenir*, 1889)

—— 翻訳と註解の試み —— …………… 549

森本 淳生／鳥山 定嗣 監修

京都大学人文科学研究所「ポスト=ヒューマン時代の起点としてのフランス象徴主義」班訳

〈資料紹介〉

宮崎家所蔵宮崎龍介関係資料目録 …………… 福家 崇洋 677

関西日仏学館(京都)に関する資料 …………… 藤野 志織 699

—— 戦前の文化活動を中心に ——

〈ワークショップ等記録〉

『ライフヒストリーレポート選』のこれまでとこれから

—— 創刊 11 周年記念校正者座談会 —— …… 中野 花菜・齊藤 ゆずか 735

木谷 百花・佐藤 遼太郎

中元 洸太・菊地 暁

* * *

籠谷直人教授 略歴・著作目録 …………… 763

佐藤淳二教授 略歴・著作目録 …………… 771

彙報 (2023 年 4 月～2024 年 3 月) …………… 775

CONTENTS

Special Issue : Mapping the Space of Possibility: A Dialogue between Ethnomethodology and Historical Epistemology

Mapping the Space of Possibility: A Dialogue between Ethnomethodology and Historical Epistemology	Y. OKAZAWA	1
Respecifying <i>Objectivity</i> and <i>Laboratory</i> Life from an Ethnomethodological Point of View.....	H. MAEDA	7
Return to Epistemology and Ontology in Shirtsleeves.....	K. KAWAMURA	25

Special Issue : Postwar Kyoto and the Educational and Cultural Movements: Focusing on Kyoto Jinbun Gakuen

Introduction.....	T. FUKE	45
Articles		
The Formation and Transformation of Kyoto Jinbun Gakuen: History of the relationship between educational spaces and social movements.....	T. OKUMURA	49
The History of Kyoto Jinbun Gakuen in Private miscellaneous school: The potential of education to cultivate the spirit of humanism	S. SUNAGA	77
Takeshi Shinmura and <i>Sekai-Bunka</i> in Kyoto in 1930s.....	S. FUJINO	115
Light and Darkness of Postwar Historiography: Toru Watanabe and Research on the History of Social and Labor Movements	T. FUKE	143
Documents		
Catalogue of the documents		
I Catalogue of the documents Related to Kyoto Jinbun Gakuen in Kyoto Kinrousha Gakuen	T. OKUMURA, S. SUNAGA and T. FUKE	173

II	Catalogue of the documents Related to Kyoto Jinbun Gakuen donated by Kusuho Yoshida	S. SUNAGA	233
III	Catalogue of the documents of Takeshi Shinmura	T. OKUMURA, S. SUNAGA T. FUKE and S. FUJINO	237
IV	Catalogue of the documents of Kyoto Sohyo	T. FUKE	261
Reprint documents			
I	Takeshi Shinmura: the Issues of democratic front	S. FUJINO	279
II	Lecture note of “liberal arts” by Takeshi Shinmura, based on Establishment prospectus in June 1	S. SUNAGA	319
III	Entrance exam essays in 1946, written by successful applicants	S. SUNAGA	331
IV	Lecturers’ meeting record, December 1 (in account book “Founding of the Labor Kyoto Materials of Jinbun Gakuen and Kyoto Workers’ Education Association, Preserved by Mr. Toru Watanabe)	T. OKUMURA	337
V	Takeshi Shinmura: the Condolence speech to Tokio Sasaki	T. FUKE	345
VI	30th Anniversary Gathering of the Jinbun Gakuen	T. OKUMURA	349
Articles			
	Une relecture génétique de <i>L’Amour en visites</i> d’Alfred Jarry : Autour de la prépublication inédite dans le journal <i>Don Juan</i>	Y. GODA	383
	“We Want Blue Sky” Revisited: An Anti-pollution Movement by Women’s Associations in Tobata Ward, Kitakyushu City, 1963-1970	S. KOBORI	403
	Magoshichiro Sugi and Sennyuji Temple: With a focus on the Relationship with the Imperial Court	M. SAITO	453
	La philosophie de Yamauchi Tokuryū. Vers le dépassement englobant des pensées orientales et occidentales	R. JANNEL	475
	Laying Their Bodies on the Tracks: A Philosophy of Technology Approach to Railway Suicide	A. SETOYUCHI	495

Poor Harvest in the Tonami Plain during the Tenmei Period
in the Late 18th Century K. TAKEI 513

Paul Valéry and Japanese Poetics in Kuki Shūzō's Theory of Rhyme:
A Study of Pure Poetry Y. FUJINUKI 535

Translation with Notes

René Ghil's *Le Meilleur devenir* (1889):
An Attempt at a Japanese Translation with Notes
..... A. MORIMOTO and T. TORIYAMA ed. 549

Material Introduction

Catalogue of the Miyazaki Family documents relating
to Miyazaki Ryusuke T. FUKE 677

Présentation de l'histoire de l'Institut franco-japonais du Kansai à Kyoto:
autour de l'activité culturelle (1927–53) S. FUJINO 699

Table Talk

Past and Future of *Life History Report Selection*:
11th anniversary Proofreaders' table talk
..... H. NAKANO, Y. SAITO, M. KITANI, R. SATO 735
K. NAKAMOTO and A. KIKUCHI

* * *

Professor Naoto Kagotani Career History and Writings 763

Professor Junji Sato Career History and Writings 771

Institute for Research in Humanities:
Report on Staff and Research Projects 2023–2024 775

『人文学報』投稿規定

1. 『人文学報』は、京都大学人文科学研究所が原則として年1回4月に刊行する学術誌で、人文科学諸領域に関する論文、資料紹介、書評などを掲載する。投稿原稿は原則として日本語で書かれ、日本語で初めて公刊されるものとする。
2. 本誌に投稿する資格を持つのは、共同研究班員や受け入れ研究者を含め、京都大学人文科学研究所に制度的に所属する者、および所属した者とする。ただし、編集委員会が適切と判断した場合には、これら以外の執筆者からの投稿も可とすることがある。
3. 投稿原稿の掲載の可否は、編集委員会が指名した専門家による査読にもとづいて、編集委員会が責任をもって最終判断する。編集委員会は、原稿受領後、2ヶ月以内に査読結果を投稿者に通知する。投稿論文は、(A)そのまま掲載、(B)修正のうえ掲載、(C)不可のいずれかに判定される。(B)の判定を受けた投稿原稿が、その後1ヶ月以内に編集委員会の要請を満たす加筆修正を行っていないと判断された場合は、掲載不可となることがある。
4. 投稿希望者は、5月末までに、仮タイトルと400字程度の要旨を編集委員会に提出する。投稿メ切りは8月末日とする。投稿原稿は、『人文学報』編集委員会宛に送付する。とくに枚数の制限を設けないが、論文は12,000～48,000字、書評は4,000～8,000字を目安とする。ただし、他の掲載論文との関係から調整を求めたり、制作実費を申し受ける場合がある。
5. 他雑誌への二重投稿についてはこれを禁ずる。
6. 原稿執筆にあたって、投稿者は後述の『『人文学報』執筆要領』にしたがう。
7. 図版、写真などを掲載する場合は、投稿者の責任において、あらかじめ著作権者から許諾を受けるものとする。
8. 投稿者は、最終原稿の①テキストファイルないしワープロソフトによる文書ファイル、②PDFファイルを編集委員会に提出する。電子データの提出は、電子メールへの添付ないし電子記憶媒体によって行うことができる。
9. 著者による校正は2回とする。
10. 原稿料は支払われない。ただし、希望する著者には本誌1部と抜き刷り30部が無料で提供される。
11. 『人文学報』の掲載原稿について、著者は複製権（電子化する権利）と公衆送信権（公開する権利）に関する許諾を京都大学人文科学研究所に与えたものとする。人文科学研究所は頒布の便を図るために、京都大学学術情報リポジトリを通じて掲載論文等を画像あるいはPDF等の形式で送信することができる。

『人文学報』執筆要領

1. 使用言語は原則日本語とし、原稿は A4 サイズ横書きとする。以下は日本語論文を想定した要領である。
2. 論文には、日本語（800 字程度）と欧文（200 語程度）の要旨を添付し、それぞれキーワードを 5 つずつ記す。
3. 注は文末注とし、本文とは頁をあらためて作成する。本文中の注番号は字肩に上付きで、1)、2) などと記す。
4. 本文・引用・文末注などの書式は各専門分野の慣行に従うこととし、特に規定しない。
5. 論文はいくつかのセクションに分け、各セクションの見出しにはアラビア数字で番号を付す。
6. 図表や写真の掲載を希望する際は、図表に関しては PDF ファイルを、写真に関しては、典拠となる電子データを別途提出する。それぞれに通し番号、表題、出典（該当する場合）を明記し、本文中の挿入箇所を通し番号で指示する。
7. 書評の場合は、対象となる著作の著者名、書名（副題、シリーズ名、巻名も含む）、刊行地、出版社、頁数、定価などを冒頭に記す。
8. 他の言語ですでに発表したものと内容が重なる場合は、冒頭の脚注でその旨明記する。
9. 執筆に関して質問があれば、編集委員会に問い合わせる。

『人文学報』編集委員会の宛先

606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学人文科学研究所『人文学報』編集委員会

電子メール：320zinbungakuho@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

編集委員

岡澤 康 浩

菊地 暁

KNAUDT, Till

小堀 聡

高木 博 志

直野 章 子

藤野 志 織

福家 崇 洋

森本 淳 生

人文学報 第122号

(京都大学人文科学研究所紀要 第201冊)

2024年6月15日 印刷
2024年6月20日 発行 非 売 品

発行所 京都大学人文科学研究所
京都市左京区吉田本町

印刷所 明文舎印刷株式会社
印刷者 中村 仁
京都市南区吉祥院池ノ内町10

T H E
ZINBUN GAKUHŌ

JOURNAL OF HUMANITIES

Vol. 122

JUNE 2024

Published

by

THE INSTITUTE FOR RESEARCH IN HUMANITIES
KYOTO UNIVERSITY

ISSN 0449-0274